



Point

## 苗半作、適正管理で健苗づくり!



秋田地区営農センター 主任 佐藤 怜太

稲作では、本格的な育苗シーズンがいよいよ始まります。育苗の善し悪しは田植え後の生育や収量、品質まで左右される重要な時期です。以下の点に十分留意し、健苗育成に努めてください。

### 播種作業

- ①中苗での播種量は1箱あたり乾粃で100g(浸せき粃で125g)を目安とします。
- ②催芽による芽の伸ばしすぎは播種時の欠損が多くなり、播きムラの原因ともなるので注意しましょう。目安はハト胸程度の芽の長さです。
- ③田植えは最高気温が14℃以上になってから行うのが理想です。育苗期間を逆算し(ベタ張りで播種後35日間)、早植えにならないように播種日を計画しましょう。



### 育苗期間の管理

- ①ベタ張り除去の目安は中苗で出芽長0.5cmです。出芽揃い後はすみやかに除去しましょう。出芽後の再被覆は行わないようにします(ムレ苗対策)。
- ②育苗機で加温した苗床を気温の低い朝方にハウスへ移すと、急激な温度変化が起こります。苗出しは少しでも気温が上がった状態から始めるようにしましょう。
- ③ベタ張り期間中であっても、ハウス内の温度が高い場合はしっかりと換気を行ってください(出芽時の適温は30~32℃です)。
- ④かん水の基本は朝に1回たっぷりを行います。後半は苗が大きくなり、乾きやすくなるので、床土が白く乾いたり、葉が巻き始めたりしたら十分にかん水します。
- ⑤本田でのいもち病発生の主要因は、育苗期間中に発病した苗の持ち込みです。必ず育苗期防除を実施し、いもち病被害を未然に防ぎましょう。



ベンレート水和剤 500倍 500ml/箱 播種時~7日後頃

※注意

近年、箱剤については様々な使用時期のものがあります。使用時期を逸すると薬害を起こす恐れがあるので注意してください。

農薬名	使用量	回数	使用時期	病虫害
ファーストオリゼパディート箱粒剤	50g/箱	1	播種前または播種時(覆土前)	いもち病、ドロオイ、ゾウムシ、フタオビコヤガ、イナゴ類 他
ルーチンアドスピノ箱粒剤			播種前から移植当日	いもち病、ゾウムシ、ドロオイ、ハモグリバエ、フタオビコヤガ、ウンカ類 他
ツインターボ箱粒剤08			いもち病、ゾウムシ、ドロオイ、ウンカ類、ツマグロヨコバイ 他	
箱いり娘粒剤			移植7日前から移植当日	いもち病、紋枯病、ゾウムシ、ドロオイ、フタオビコヤガ、ハモグリバエ 他